

Flowmon 導入で IT 基盤を強化した三菱地所

導入事例



課題

三菱地所株式会社は、まちづくりを通じて働きやすい、生活のしやすい場所の提供を目指しており、変化し続ける社会に柔軟に対応し、来街者・生活者に寄り添った「共感できるまちづくり」を進めています。特に、DX を用いた「新規事業・サービスの推進・強化」及び「変革を支える IT 基盤の構築・強化」の両輪で、デジタルを起点とする様々な新事業創出、グループ全体のデータドリブン経営に向けた各事業の支援などに注力しています。三菱地所株式会社 DX推進部・マネージャーの小林氏に、Flowmon を導入するまでの経緯と、その効果についてお話を伺いました。

産業

不動産

製品

Progress Flowmon

概要

三菱地所株式会社では、住み・働き・憩う方々に満足いただける地球環境にも配慮した魅力あふれるまちづくりを通じて、真に価値ある社会の実現に貢献しています。ユーザーに新しい価値・体験をもたらすためにDX推進に努める一方で、三菱地所グループの従業員のリモートワーク導入などが進む中で、次世代の事業や働き方に欠かせないITインフラ構築にあたりこれまで社内トラフィックの可視化が十分にできていなかったため、Flowmon を導入することでIT基盤やセキュリティ体制の強化を試みました。

ITインフラ基盤という観点で、これまで通信トラフィックの可視化が十分にできていない状態ではなかったため、Progress® Flowmon® を導入することで SaaS 利用拡大等により日々増加する通信の需要予測やウイルス感染時の通信の状況などを把握可能にすることを目的としました。現在はネットワークインフラ環境のゼロトラスト化を進めることでインフラ高度化およびセキュリティ強化を図っています。

「弊社(三菱地所株式会社)環境では以前からSNMPによる監視システムが導入されており、通信の絶対量のみ把握が出来ていました。しかし、通信の内容まで分からなかったため、ユーザーより通信が遅い等申告があった際や、通信量の閾値のアラームが上がった際にどの通信がネットワーク回線やネットワーク機器を逼迫しているのを解析することが難しい状況でした。また、ウイルス等に感染したPC端末から社内外のどの宛先に通信が発生したのかを把握することができず、FWのログなどから解析する必要があり、有事の際に解析に時間がかかっていました。これらの課題を解決するためにまずは通信の可視化が必須であると判断し、Flowmon の導入を検討しました。」

ソリューション

2022年6月から検討をはじめ、2022年10月に導入しました。同時に監視システムのリブレースや運用の整備も行っていたため、導入が完了したのは2023年6月でした。選定時に重視したポイントとして、大きくは3つあると小林氏は話します。

「1つ目は、ネットワーク管理者に使い勝手がよいユーザインタフェース (UI) であること。2つ目は、他社でも導入実績があること。そして3つ目は最も重視したポイントで、URL 単位で通信量を把握できることでした。」

弊社では、プロキシサーバーを使用しており、IP アドレスレベルでの通信量の把握をするとすると、プロキシサーバーに集約されてしまうため実態を把握することができませんでした。しかし、プローブを導入することで URL 単位の通信量を可視化できることが、導入の一番の決め手となりました。また複数の他社製品とFlowmon Probe を機能比較しましたが、特にベンダーのデモや提案資料等を確認する中でグラフをネットワーク管理者に理解しやすいよう複数形態で出力できることや、通信利用量のトップ10などを出力して使用状況を把握できることも魅力的でした。」

「運用保守も併せてベンダー選定を実施していましたが、3社中2社が Flowmon を提案しており、ベンダーからも信頼の厚い Flowmon に決めました。そして、その中でも高度な技術と確かな知見を持つ三菱地所 IT ソリューションズ株式会社 (MJIT社) と、安心安全の ICT ソリューションと高品質のサービスを提供する三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社 (MIND社) を選択しました。」

**「従来の SNMP
では数時間、数日と
かかっていた解析
作業が数十分に短
縮されることにも期
待したいですね。」**

小林氏
DX 推進部マネージャー、
三菱地所株式会社

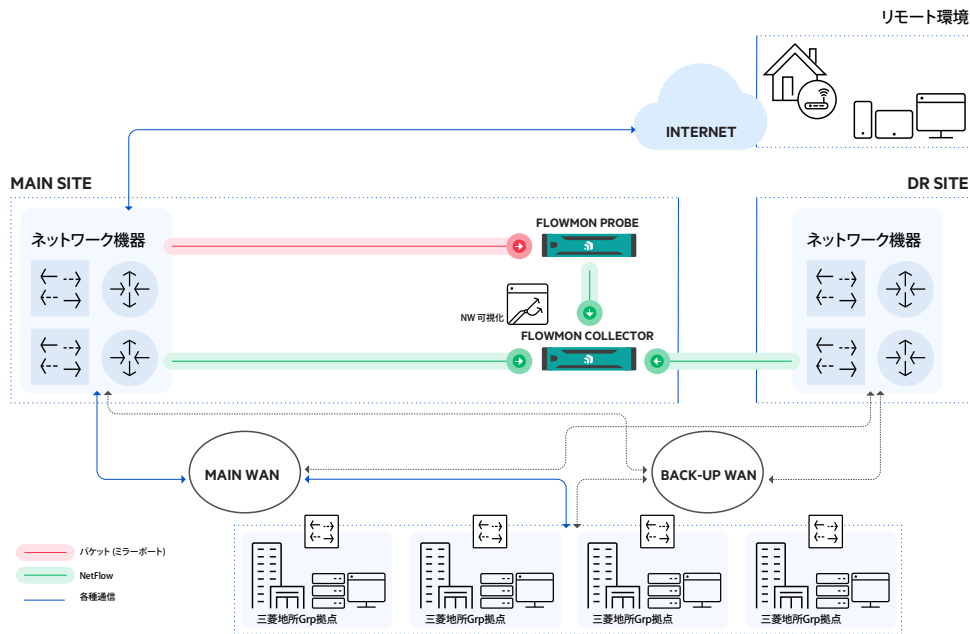
結果

従来、三菱地所グループでは通信を可視化する手段がありませんでしたが、Flowmonを導入することで今後の需要予測や、万が一ウイルスに感染してもトレースすることが可能になりました。

「弊社は東京と全国のもう1拠点にインターネットの出口を持っており、今回は東京にプローブを導入しましたが、今後もう1拠点にも導入を検討しており、URL単位での通信量の把握ができることを期待しています。また従来の SNMP では数時間、数日かかっていた解析作業が数十分に短縮されることにも期待したいですね。通信の証跡という観点でも長期保存のニーズは多いと思います。」

「1つ目は、ネットワーク管理者に使い勝手がよいユーザーインターフェース (UI) であること。2つ目は、他社でも導入実績があること。そして3つ目は最も重視したポイントで、URL 単位で通信量を把握できることでした。」

小林氏
DX 推進部マネージャー、
三菱地所株式会社



三菱地所グループ共通ネットワーク基盤構成概略図

販売パートナー:

オリゾンシステムズ株式会社

三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社



Flowmon の詳細については、以下のページをご参照ください。
progress.com/jp/flowmon

プログレスについて

プログレス (Nasdaq: PRGS) は、ミッションクリティカルなアプリケーションとエクスペリエンスを開発および展開するのに役立つソフトウェアや、データプラットフォーム、クラウド、IT インフラストラクチャを効果的に管理できるようにするソフトウェアを提供しています。プログレスはテクノロジー分野での業務効率の向上に貢献できる経験豊富で信頼できるプロバイダーです。数十万の企業の、400 万人を超える開発者と技術者の方々に、プログレス製品を何らかの形でご利用いただいています。詳細については、www.progress.com をご覧ください。

プログレス・ソフトウェア・ジャパン株式会社
〒106-0047
東京都港区南麻布4-11-22 南麻布T&F ビル
www.progress.com/jp
sales_japan@progress.com